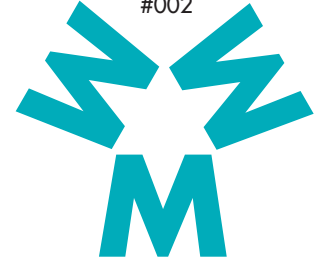




Mag-on Your Challenge

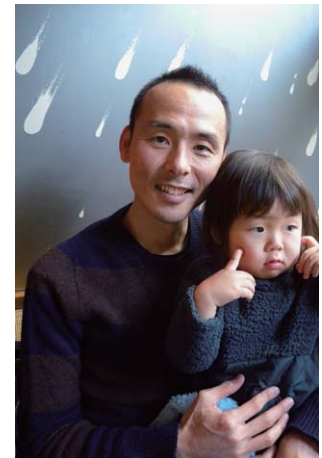
#002



アスリートの挑戦に、マグネシウムを

高岡亮寛さん

ツール・ド・おきなわ2007・2011
市民210km王者



Akihiro Takaoka

市民ロードレースの国内最高峰、ツール・ド・おきなわの市民210kmの部で、2007年、2011年の2度、勝利を上げているトップサイクリスト(※2007年は200km)。中学3年のときに自転車競技と出会い、1998年にはU23の日本代表としてロードの世界選手権に出場。就職後、一旦、競技から離れたが、2006年に復帰、以来、最強市民レーサーの名を欲しいままにしている。2男1女の父。イナメ・信濃山形所属。1977年、神奈川県生まれ。

自転車ロードレースの国内最強市民レーサー決定戦「ツール・ド・おきなわ」で、9年連続出場のうち優勝2回、2位3回と、突出した成績を上げているのが高岡亮寛さんだ。2014年大会でも最終レースをコントロールし、6月までコンチネンタルチームに所属した26歳の実力者、ヤン・インホン(香港)とのスプリント勝負までもちこんで、2位入賞を果たした。

一年の集大成と位置付けるおきなわに向けて、その1カ月前から「生活が変わる」。1週間1サイクルとし、各週末に調整の進捗具合を見極めるレースを入れる。食事制限も交え2kgほど一気に体重を落とすのが、必勝パターン。「長期間かけて絞るとパワーが落ちるので、1カ月で集中して調整します。仕事があるので年中、競技中心の生活を送るわけにもいきません」

2男1女の父で、外資系金融機関で働く、超多忙なビジネスマンでもある高岡さん。ごく限られた時間の中で集中して行う練習に加え、食事制限も行うと、栄養面でも体重とともに「必要なものまで抜けていく」感覚があるという。その調整の中でマグ・オンに出会い、朝・昼・晩と毎日3包ずつ摂り続けた。これが今回の調整に良い影響をもたらしたという実感がある。

「脚がすりやすくて、勝ったときでもつりながら走っていることがあるのですが、おきなわ前々週の調整レースで一度もつらなかった。アベレージ47km/hとハイスピードな展開で、途中2分近くかかる上りもあるレースなので、つる条件はそろっていたのですが」

そうして好調のうちに臨んだのが、2014年のおきなわだった。

(上段写真右から) 優勝したヤン・インホン(写真中央)、3位に入ったチームメイト森本誠さん(同右)と表彰台に上る高岡さん/2014年8月に開催されたアイアンマン・ジャパン北海道にはラン&スイムのスペシャリストとともにドリームチームを組んでリレーの部に出場。「久しぶりに見たアイアンマンのフィニッシュは感動的でした」/アイアンマンとしてはアツプダウの多い洞爺湖のバイクパート180.2kmを4時間56分24秒で走破はさすが



闘い続けるアスリートを応援する
《水溶性マグネシウム》

Mag-on (マグ・オン)

不足しがちなマグネシウムを素早くチャージ

毎日のトレーニングやレースでの発汗、ストレスなどにより失われる必須ミネラル「マグネシウム」を効果的に吸収。Mag-onは、高純度な国産のマグネシウムを、素早く溶けて、吸収率の高い水溶性に加工した、アスリートのためのサプリメントです。

30包入り ¥6,900 (税別)
8包入り ¥2,000 (税別)

マグネシウム200mg
1包3.7g
レモンフレーバー/顆粒タイプ
カルシウム、各種ビタミン類も配合

最強の市民レーサーは ただ強いだけじゃない。

2014年11月9日、全国から屈強の市民レーサーが割拠したツール・ド・おきなわ市民210km。優勝候補の高岡さん(写真手前)は、メイン集団の前方でレースをつくる



30
Packets



8
Packets



顆粒スティック裏面には闘い続けるアスリートに捧ぐ24種類メッセージを

仕事や家庭生活とのバランスも含め、真の意味での最強市民レーサーの呼び声が高い高岡さん。アスリートとしての目標は、おきなわで前人未踏の通算4勝。そして、ロードの日本選手権でひとケタ順位に入ること。

「2月の東京マラソンに出て、満足のいく結果が出せたら、8月のアイアンマン・ジャパンにも出場したいと思っています。アイアンマンは2003年にフランクフルト大会に出たことがあるのですが、今度は本気で挑戦して、一度はハワイに出てみたいです」